

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

16

VOL.



西の湖ヨシ灯り展 2012

上の写真は昨年9月に開催された「西の湖ヨシ灯り展」の様子です。近江八幡市内の小・中学校を中心に480点余りの作品が展示され、夕暮れとともに灯りが一斉に点灯されると、ヨシのオブジェがよしきり池のほとりに素朴な光を放ち、幽玄の世界を浮かび上がらせています。

今年も、9月28日、29日の二日間近江八幡市安土町下豊浦 江ノ島地先で開催されます。皆さん一度夕涼みがてら出かけてみてはいかがでしょうか・・・ほのぼのとした灯りがきつと郷愁をそそることでしょう。

※ 詳しくは、後日パンフレットを配信させていただきます。

びわ湖を知る ■ 問題



びわ湖にはいくつの島があるでしょうか？

- ① 1島
- ② 4島
- ③ 2島
- ④ 6島

特集 1ページ

滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員
亀田 佳代子 様より

琵琶湖のカワウ

【カワウってどんな鳥？】

みなさんは、カワウという鳥をご存じですか。カラスより大きな黒い水鳥で、くちばしや首が細長く、水にもぐって魚を食べます。鶺鴒の鳥を思い浮かべていただければ、その姿形は想像がつくと思います。ただ、現在の鶺鴒のウはウミウという別の種類の鳥です。ウミウは名前の通り海で生活し、岸壁などの地上に巣を作りますが、カワウは海の沿岸部の他、汽水域や内陸の河川や湖沼でも生活し、水辺の森で樹上に巣を作るという特徴があります。



「カワウ」

【減って、増えた鳥、カワウ】

もともとカワウは、北海道を除く日本全国に広く分布する鳥でした。でも、絶滅が心配されるほどに減少し、全国で3000羽以下になった時期もありました。1960～1970年代のカワウの急激な減少は、沿岸部の埋め立てや河川の護岸化、土地開発や大規模建設、水質汚濁による採食環境の悪化、有害化学物質の蓄積、狩猟や有害鳥獣駆除などによると考えられています。その後、カワウの数は回復し、急速に分布を拡大します。増加の要因としては、1970年代までの環境悪化が改善されたことに加え、繁殖地の保全、河川構造の単純化による採食環境の好転、魚類の放流による誘引、駆除や追い出しによる分散促進などが考えられています。

琵琶湖でも、戦前はカワウが生息していました。1930年代には、竹生島や沖の白石などにカワウの巣があったそうです。でもその後、戦後から1970年代には、琵琶湖ではカワウはほとんど見られませんでした。それが、1982年に竹生島で巣が5巣発見され、次いで1988年に近江八幡市の伊崎半島で30～40巣が確認されたのをはじめてとして、カワウの数は急激に増加しました。2000年代後半には、3万羽から4万羽ほどにもなったのです。



「竹生島のカワウコロニー(2008年6月)」

【カワウが増えるとなぜ困るのか？】

カワウの増加に伴い、各地で問題が生じています。一番の問題は、湖沼や河川での漁業への食害、特にアユです。多くの河川では遡上するアユが減少しており、漁協がアユを購入して放流し、釣り人から遊漁料をもらって収入を得ています。琵琶湖ではこれに加え、放流や養殖に使うアユを、遡上期に河口のヤナや琵琶湖岸のエリなどでとります。現在の琵琶湖の漁業にとって、アユは大事な魚です。多くの魚が減少する中、アユの漁獲量だけがかろうじてもちこたえており、放流用の生きたアユは単価が高いこともあって、琵琶湖漁業の年間漁獲高の半分以上がアユによって支えられています。そのアユを、カワウが大群でやってきて食べてしまうのです。漁師さんにとってはたまったものではありません。

特集 2ページ

もう一つの問題は、コロニーでの森林の衰退です。カワウは巣を作るときに近くの枝葉をくちばしで折って巣の材料にします。また、親鳥やヒナが窒素やリンを多く含む排泄物を落とし、それが葉や土に落ちることで状態が変わります。その結果、木が枯れて森が衰退するのです。大規模コロニーのある竹生島や伊崎では、森林衰退による景観の悪化や土砂崩れなどの問題が起っています。



「明け方の姉川河口のカワウの群れ(2011年4月)」



「カワウの排泄物で白くなったササの葉」

【カワウによる被害への対策】

滋賀県では「カワウ特定鳥獣保護管理計画」を策定してカワウへの対応を行っています。カワウの数を減らすための「個体数管理」、被害のある場所をカワウから守る「被害防除」、被害を受けにくい状況を作るための「生息環境管理」の3つの側面から、さまざまな対策を行っています。個体数管理としては、2009年から始まった専門家による高効率捕獲により、2012年には1万羽程度にまで減少しました。一方被害防除では、被害のある漁協で、防鳥糸などの設置や巡回、花火等による追い払いなどが行われています。コロニーのある森林でも、管理歩道を整備して巡回や追い払いが行われています。生息環境管理は、被害軽減を長期的に持続するためには重要で、魚の住みやすい河川や湖沼の環境を整えたり、カワウの影響を受けにくい広葉樹を植栽するなどの取り組みが行われています。

【これからのカワウとのつきあい方】

カワウは、ブラックバスやブルーギルのように人が持ち込んだ外来種ではありません。ですから、過去や他の場所でのカワウとのつきあい方を知ることで、琵琶湖でのカワウと人とのつきあい方のヒントが得られる可能性があります。竹生島では、昔もカワウやサギのコロニーが広がってきたときには追い払いを行ったそうです。また、かつて愛知県の鶺鴒の山では、江戸時代末期から100年以上にわたり、カワウの排泄物を砂にしみ込ませて回収し、肥料として畑などに使っていました。鶺鴒の山は「鶺鴒の山鶺鴒繁殖地」として国の天然記念物にも指定されており、カワウは町のシンボルとして地元の人たちに親しみのある鳥となっています。



「カワウをキャラクターにした鶺鴒の山付近の観光農園の看板」

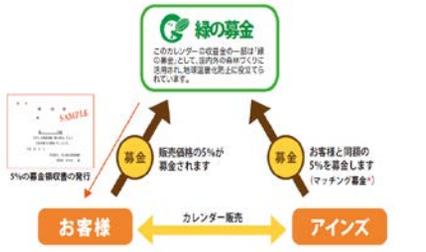
こうした事例をそのまま今の琵琶湖に当てはめることはできませんが、被害が出るほど多すぎず、かつ絶滅するほど少なくならないような状況をいかに作るのか、カワウと人との関係をいかにマイナスからプラスに転換するのかが、重要な点であることがわかります。人にとってもカワウにとっても住み心地のよい琵琶湖を目指すことが、人とカワウとの衝突を減らすことにつながるのではないのでしょうか。

ネットワーク 広場

アイズ(株)
谷 康夫さま より

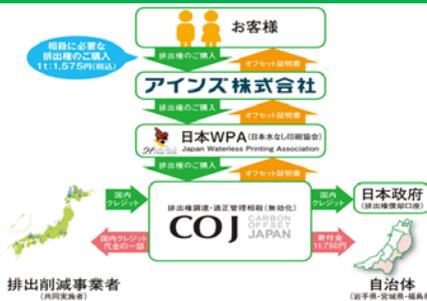
アイズは文化を担う情報企業！

緑の募金付きエコカレンダーで滋賀県緑化推進会に寄付！



2012年用カレンダーとして、「緑の募金+名入れカレンダー」のマッチング募金を滋賀県緑化推進会様に寄付。

カーボンオフセットと、東日本大震災復興支援型国内クレジットの仕組みを実現！



温室効果ガス排出権付き水なし印刷「GREENeye」。

GREENeyeのカーボンオフセットは、2011年3月から経済産業省委託事業である「地域活性化支援プログラム」の国内クレジットへ切り替え後、2012年5月に「東日本大震災復興支援型国内クレジット」に移行し、カーボンオフセットだけでなく、さらに復興支援としての社会的貢献が可能となりました。

みんなで始めよう森づくり活動に33名が参加



竜王町「緑の少年団」と当社の裏山保全活動「鏡の森グリーン倶楽部」との交流事業として「みんなで始めよう森づくり活動」を開催。活動には、小学生(2年~6年生)14名とかわせみグループをはじめとする指導員の皆さん、そして当社社員の総勢33名が参加し、里山散策や樹木探しゲーム(ネイチャーゲーム)、クラフトワーク(切り絵)など自然を通じた交流イベントを楽しみました。

「環境にやさしい印刷」を
私たちはご提案します。

水なし印刷



有害な化学薬品の使用を抑制し、廃液を出さない印刷方式に変える水なし印刷

びわ湖環境ペーパー



琵琶湖の環境を守る寄付金付き印刷用紙

FSC 森林認証紙・再生紙・非木材



森林破壊のブレイキにもなるFSC森林認証紙・再生紙・非木材紙

温室効果ガス排出権付水なし印刷グリーンアイ



印刷物の製紙工程からお届けするまでの二酸化炭素排出量を算出してカーボンオフセット

ベジタブルオイルインキ



家庭より排出される廃食油等を含む、植物由来の油を使用した環境にやさしい「植物油インキ」

vocゼロインキ



環境負荷低減の徹底追求。使用溶剤を全て植物油に切り替えた全く新しいオフセットインキ

ライスインキ



100%国産の米ぬか油を使用した地産地消のインキ

エコカレンダー



国土緑化推進機構とのコラボレーション企画「緑の募金」+名入れエコカレンダー

外来魚駆除 釣り大会

6月9日(日) 好天に恵まれた伊庭内湖で、「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」のメンバー13社の皆さんと一緒に釣りを楽しみながらびわ湖の生態系を守る外来魚駆除釣り大会に参加しました。



メンバーが集まり記念撮影！



ゆっくりと流れる時間の中みなさん思い思いに釣りを楽しみました。



ブラックバスとモロコの天ぷら
地元のご厚意で皆さんに振る舞われました。
思ったより美味でしたよ。



この日は450匹の外来魚が捕獲され、中には20cmを超える大物もつりあげられました。



長年の地域への貢献に対し感謝状をいただきました。



びわ湖を知る ■ 解答

② 4島

びわ湖には竹生島、多景島、沖島、沖の白石の四つの島があります。

昨年に引き続き2回目の釣り大会への参加。皆さん、仲間や家族連れで楽しく過ごしていただきました。小さな活動ですが、びわ湖の生態系を守るこんな活動が広がっています。

来年も多くの皆さんの参加がある事を願っています。
社会貢献を楽しみましょう！

みんなの リエデン

ヨシコピー用紙びわ湖

REEDEN

びわ湖のヨシを使った
エコなコピー用紙
MADE IN Shiga
REED PAPER

ISO
白色度
80%



PPC LASER INK

びわ湖・淀川水系のヨシを使ったコピー用紙です。パッケージは、ヨシ群落に棲む野鳥と、びわ湖の固有種の魚をモチーフにした「滋賀ならではの」デザインです。さらに、デザインは品番毎(A5・B5・A4・B4・A3)に異なり、全部で10種類の生きものが、オフィスや学校を賑わしてくれます！

例えば **A4サイズ** の場合

品番: KPS-R39S

びわ湖の固有種

魚 ニゴロブナ

滋賀県の郷土料理「鮎寿司」の原料。近似種のゲンゴロウブナに似るため、「似五郎鮎」と名付けられたとされる。



ヨシ群落に棲む **野鳥**

カイツブリ



びわ湖は昔、水鳥が集まる「鳩の湖」と呼ばれ「鳩」とはカイツブリのこと。ヨシの茎に水草など積み、「浮き巣」を形成し、雌雄交替で交代で抱卵する。